

インターポート

兵庫教育文化研究所だより

No.175

2016年12月19日

発行所 兵庫教育文化研究所

〒650-0004

神戸市中央区中山手通4-10-8

学校施設・設備を見学して 第1回学校事務実践講座

西宮市の小学校で、第1回学校事務実践講座を開催しました。学校事務職員の標準職務に示されている「学校施設等環境を整備、維持するための領域」について、実際に学校施設・設備を見学し、維持管理等施設に関する知識の習得と学校事務職員としてのかかわり方を考えました。

会場校は、今年度新校舎が完成し活動がはじまった学校です。午前の実践発表では2011年度からの校舎改築にむけた動きにかかわってきた学校事務職員から、学校施設の概要報告と、校舎改築にかかる設計からの経緯や、苦勞した点についてお話いただきました。

学校施設の特徴的な点として、フルオープンが可能なドアが設置された普通教室が挙げられます。また、教室前には広々とした「ラーニングセンター」というスペースが設けられていて、子どもたちが興味関心に応じて自由に学習ができるようにと、本や辞書などが整備されています。子どもたちの作品等を掲示する場所が多く確保できるように、マグネット可のドア、画鋲が刺しやすい壁面、移動式のロッカーの裏面に掲示ボードを設置、という工夫がされています。また、教室に自然光をとり入れるために、校舎中央部分は「光庭」というスペースになっています。さらに津波避難ビルとしての機能も備えていて、備蓄倉庫や洗濯機ブースがシャワーブースにできる機能、屋上に避難可能な非常階段等も整備されています。



学校事務職員として、すべての教職員と協議のうえで学校の要望や質問をとりまとめ、校舎改築推進委員会に参加し、子ども・保護者・地域・教職員、すべての立場にとってよりよい校舎の設計を心がけたそうです。また、工事業者や市・市教委との窓口として、仮設校舎・新校舎への引越計画や初度備品リストの作成にかかわってこられたそうです。調整にあたる際には、「報・連・相」を怠らないことや、自分の案・検討ポイントを考えてから相談することを心がけた、と報告されました。

参加者で施設見学を終えた後、4つのグループに分かれて、班別協議がおこなわれました。「子どもたちが通いたくなる」という子ども・保護者・地域の視点、「指導がしやすい」という教職員の視点、「維持・管理しやすい」という学校事務職員の視点、それぞれの視点から自分の勤務校と比べながら意見を交流しました。さらに標準職務通知の学校施設等環境を整備、推進するための領域について実践していきたいことを交流し、実践講座を終えました。

